

## はじめに

時計台記念病院は、地域の医療機関相互の連携により地域完結型の診療を目指すという理念のもと開放型病床の積極的運用に力を注いでおります。

当院の開放型病床は、循環器内科、形成外科、眼科、産婦人科、消化器科の内容にかかわる「診療・検査・手術」に限定して当院の施設・設備を開放して、地域の先生方にご利用を頂きたいと考えております。開放型病床は現在10床をご用意しております。

## 開放型病院とは

### (定義)

名前が示すとおり地域の先生方に病院の施設・設備を開放した病院のことです。これにより地域の医療機関が連携を深めることで、医療機関単独の自己完結型の診療から医療機関相互の連携による地域完結型への診療が可能になります。

### (意義と利点)

その利点としては、かかりつけ(医院)の先生方から紹介を受けた患者様にとっては、かかりつけの先生方と開放型病院の医師の共同により、入院から退院までの診療・検査・手術等の一貫した治療を受けられることに加えて、さらには、紹介して頂くかかりつけ(医院)の先生方にとっては、退院後も引き続き元の医療機関で外来診療を継続することで、経済的(重複した検査が行われない)・継続的な安心できる治療を行うことが可能となります。

## 開放型病院の役割

### (特徴)

開放型病院の最大の特徴は、ご紹介いただいた患者様の治療のために、当院の設備・施設が開放されている点です。紹介元の先生方は主治医としてこれらの設備・施設をご利用できます。

外来で診療を続けていた患者さんの病状が変化して、新たに検査や手術あるいは入院治療が必要になることは多々経験するところですので。このような場合、開放型病院をご利用いただければ、紹介した先生自身が主治医となり、入院から退院までの診療・検査・手術等の一貫した治療を行うことが可能となります。

## 登録医

- 1) 登録医とは時計台記念病院 開放型病床の診療業務を行うため、登録医申請書により時計台記念病院に届け出た医師を示します。
- 2) 登録医になるための手続き
  - ① 開放型病床のご利用をお考えの先生には、当院の方から担当者を伺わせていただき、申請の手続き、開放型病床のご利用手順の説明にあがります。  
地域連携センターまでご連絡下さい。

**直通電話:011-251-1249 直通 FAX:011-261-8910 (地域連携センター)**

- ② 登録医申請書に必要事項を記入し、地域連携センターへ返信封筒にてお送りください。
- ③ 当院より登録医師証明書を郵送・交付いたします。

## 登録医の診療報酬

### (診療報酬)

以下の点数が算定できます。

### (点数)

登録医が当院に来られ、ご紹介患者様を当院の医師と共同でご診察いただいた場合、「開放型病院共同指導料(Ⅰ)350点(1回/日)」が算定できます。

### (請求方法)

入院期間中の「開放型病院共同指導料(Ⅰ)」については、あらかじめ登録医より患者様に説明の上、了承してもらい、退院後に登録医の外来を初回受診した際に請求できます。

### (手術料)

当院の手術室で手術された登録医の方には手術料は下記に基づいて当院よりお支払いいたします。

- |            |         |                 |
|------------|---------|-----------------|
| 1) 執刀された場合 | 手術料の50% | (但し上限 100,000円) |
| 2) 助手の場合   | 手術料の25% | (但し上限 25,000円)  |

## 開放型としてご利用いただける診療科

下記の診療科に関わる疾患についてのみ開放型病床をご利用することができます。

循環器内科 消化器科 形成外科 眼科 産婦人科

### (具体的運用事例)

#### 循環器内科においては

##### 1) 入院:

- \* 外来通院中の患者様の症状が一時的に悪化したために入院治療を必要とする場合にご利用ください。

具体的には、

- ① 高血圧のコントロールが不良となり多剤併用によっても十分な降圧が得られず、二次性高血圧の鑑別診断や、薬剤調整を必要とするような症例
- ② 慢性心不全の急性増悪
- ③ 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)症例の不安定化

などが主なものと思われます。

勿論、上記以外の病態でも入院治療を必要とする場合には対応いたします。

- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

##### 2) 外来検査・入院検査:

- \* 診断確定や病状の把握のために、心臓カテーテル検査、MDCT、心臓MRI、超音波検査などを必要とする場合にご利用ください。
- \* 担当の先生のご希望がある場合には、検査に立ち会っていただいたり、あるいは検査を施行していただくことも可能です。この場合は、当センター医師・検査技師がお手伝いさせていただきます。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

##### 3) インターベンション治療:

- \* 虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)に対する経皮的冠動脈形成術(PCI)、末梢血管(下肢動脈、鎖骨下動脈、腎動脈)に対する経皮的動脈形成術(PTA)、僧帽弁狭窄に対する経皮的

僧帽弁交連切開術(PTMC)、閉塞型肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術(PTSCMA)などのカテーテルインターベンション治療を必要とする症例をお引き受けいたします。

- \* 担当の先生のご希望があれば治療に立ち会っていただいたり、あるいは参加していただくことも可能です。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただくこともできます。

## 消化器内科においては

### 1) 入院:

- \* 外来通院中の患者様の症状悪化や治療後の経過観察等の目的に入院を必要とする場合にご利用ください。

具体的には、

- ① 急性および慢性の消化器症状(嘔気、嘔吐、食欲不振、下痢、便秘、腹痛、肝障害、黄疸など)の治療
- ② 摂食不良、嚥下障害による栄養障害の治療
- ③ 消化器癌の化学療法、各種がんの緩和治療
- ④ 慢性肝炎のインターフェロン導入、肝性脳症など。

勿論、上記以外の病態でも入院治療・観察を必要とする場合には対応いたします。

- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 2) 外来検査・入院検査:

- \* 診断確定や病状の把握のために、上部(経鼻・経口)・下部消化管内視鏡検査、ERCP、EUS、MDCT、MRI、超音波検査、PET-CT<sup>注1)</sup>、SPECT<sup>注1)</sup>などを必要とする場合にご利用ください。
- \* 当科では上部、下部内視鏡とも国内で最も細いファイバーをご用意しております。
- \* 担当の先生のご希望がある場合には、検査に立ち会っていただいたり、あるいは検査を施行していただくことも可能です。この場合は、当センター医師・検査技師がお手伝いさせていただきます。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

注1) PET-CT、SPECT に関しては当院関連施設の共同利用型高度画像診断検査センターLSI札幌クリニックにて検査を行います。

### 3) 内視鏡的治療をはじめとする消化器疾患の治療および手技:

- \* 消化管疾患の治療:胃・大腸ポリペクトミー、早期胃がん粘膜切開剥離術(ESD)、内視鏡的胃瘻造設術(PEG)、内視鏡的盲腸瘻造設術(PEC)、上部・下部消化管止血術、食道静脈瘤結紮術(EVL)、硬化療法(EIS)、イレウス管挿入、など治療・手技を必要とする症例をお引き受けいたします。

- \* 肝胆膵疾患の治療:胆道ドレナージ(PTCD,PTGBD、EST、内視鏡的胆管ドレナージ、胆道ステント留置)、総胆管結石砕石術、肝生検、RFA など治療・手技を必要とする症例をお引き受けいたします。
- \* 担当の先生のご希望があれば治療に立ち会っていただいたり、あるいは参加していただくことも可能です。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただくこともできます。

## 形成外科においては

### 1) 入院:

- \* 外来通院中の患者様の症状が増強～悪化したために、入院・安静あるいは治療・検査を必要と考えた場合にご利用ください。

具体的には、

- ① 創傷(挫裂創、熱傷、褥瘡など)が感染等で急激に悪化した場合など、入院させて主治医として診療したいとご希望された際にご利用下さい。

- \*退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 2) 手術:

- \* 外来で診ていた患者様に手術が必要となり、主治医として自ら手術を行いたいとご希望する場合にご利用ください。

具体的には、皮膚腫瘍切除術、植皮術、骨移植術など・・・。

- \* 全身麻酔科下の手術も可能です。
- \* 関連科の当院医師が手術助手のお手伝いをいたします。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 3) 検査:

- \* 診断確定や症状の把握のために、CT、MRI、超音波検査等が必要と思われた場合、あるいは、外来診療中の患者様が、糖尿病や心疾患等の合併症が原因で全身状態が悪化したため、入院しての諸検査が必要と思われた場合などにご利用ください。
- \* 紹介していただいた先生が主治医として入院治療を行うことが可能です。
- \* 院内他科のコンサルトや検査オーダーをすることができます。
- \* 検査の結果を得た後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

## 眼科においては

### 1) 入院:

- \* 外来通院患者様の症状が悪化したために入院加療を必要とする場合にご利用ください。

具合的には、

- ① 急性緑内障発作で、点眼では眼圧が下降せず、点滴や内服が必要な場合など
- ② 網膜動脈閉塞症で、高圧酸素療法や線溶療法が必要な場合など
- ③ 角膜潰瘍や眼内炎、眼窩蜂巣炎などの感染症で、入院加療が必要な場合など、入院させて、主治医として診療したいとご希望された際にご利用ください。

\* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

## 2) 手術:

\* 外来で診ていた患者様に手術が必要となり、主治医として自ら手術を行いたいとご希望する場合にご利用ください。

具体的には、レーザー虹彩切開術、レーザー後嚢切開術、レーザー網膜光凝固術、網膜復位術、白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、斜視手術など・・・。

\* 全身麻酔下の手術も可能です。

\* 眼科の当院医師が手術助手のお手伝いをいたします。

\* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

## 3) 検査:

\* 診断確定や病状の把握のために、CT、MRI、超音波検査、蛍光眼底造影検査、光干渉断層計(3D OTC)、ERG・VEP などが必要と思われた場合、あるいは外来診療中の患者様が、全身状態が悪化したため、入院しての諸検査が必要と思われた場合などにご利用ください。

\* 紹介していただいた先生が主治医として入院治療を行うことが可能です。

\* 院内他科のコンサルトや検査をオーダーすることができます。

\* 検査の結果を得た後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

## 婦人科においては

### 1) 入院

\* 外来通院中の患者様の症状が増強～悪化したために、入院・安静あるいは治療・検査が必要と考えた場合にご利用ください。

① 機能性性器出血に対する通院治療中にもかかわらず、止血できず増量が認められ、入院・安静、経過観察が必要な場合

② コルポスコープ下の組織生検後、止血できず入院・経過観察が必要な場合

③ 腹痛が通院加療で改善せず、入院加療あるいは入院精査が必要と認められた場合

④ 妊娠悪阻に対する入院加療が必要な場合

\* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 2) 手術:

\* 外来で診ていた患者様に手術が必要となり、主治医として自ら手術を行いたいとご希望する場合にご利用ください。

例えば、複式手術、膣式手術(子宮頸部円錐切除術を含む)、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術など各種婦人科手術が該当します。

- \* 全身麻酔下の手術も可能です。
- \* 関連科の当院医師が手術介助のお手伝いをいたします。
- \* 退院後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 3) 検査:

- \* 診断確定や病状の把握のために、CT、MRI、超音波検査などが必要と思われた場合、患者様の全身状態を考慮し入院の上、精査希望の場合にご利用ください。
- \* 紹介していただいた先生が主治医として入院治療を行うことが可能です。
- \* 院内他科のコンサルトや検査やオーダーすることができます。
- \* 検査の結果を得た後は、引き続き紹介先で外来診療を継続していただけます。

### 産科に関しては

当院に小児科医がいないことから、現段階では周産期の異常が考えられるケースあるいは異常が引き起こされる可能性のあるケースは除外させていただきます。

ご不明の点は、窓口担当医師の産婦人科:藤井美穂(内線3033) [m-fuzii@tokeidaihosp.or.jp](mailto:m-fuzii@tokeidaihosp.or.jp) にお問い合わせください。